

意見交換会における子どもたちの意見 まとめ

テーマ1 2022年4月1日から新潟市子ども条例が施行されたことを踏まえて考える

(1) 新潟市はなぜ子ども条例を策定したと思いますか？

- 子どもの権利が尊重されていなかったり、尊重されていないと感じたりする人が多かったから。(子どもの立場や存在が薄くなっている 貧困により十分な教育が受けられないから)
- 子どもの権利を尊重する社会を創り、子どもが平等に豊かな子ども期を過ごせるようにするため。(子どもの人権を多くの人が理解し、子どもが豊かに過ごせる環境をつくるため)
- 連日のように、ニュースなどで、児童虐待についての報道があり、子どもの権利が侵害されている人が多いから。(新潟市でも虐待やいじめ、差別などの問題がよく取り上げられているから)

(2)-1 新潟市子ども条例が制定されて変わったことはありますか？

- 特に変わっていない。
- よくわからない。感じたことはない。

(2)-2 新潟市子ども条例が制定され、4月から施行されたことで変わらなければならないことはありますか？

- 大人も子どもも、どちらも平等に権利を守っていくこと。
- 子どもの権利について、もっと多くの人が真剣に考えるようになり、子どもの権利が守られるべきである。
- 今回の子ども条例の制定を含め、より多くの子どもがいろいろな決め事に参加できること、物事の企画や決定に、子どもの意見が尊重され取り入れられるとよいと思う。また、子どもに関するルール(校則)などについても、子どもの意見が入るとよいと思う。
- 市民一人一人がこの条例を知ること。そして、これからの市を築いていく役割は、子どもである私たちが担うべきだと思う。だから、この子ども条例を一人一人がしっかりと理解し、多くの人に広めていく必要があると思う。

テーマ2 子ども（中学生）にとって、どのような権利があり、どのように関わっているか

(1) 新潟市子ども条例の5つの権利を読んで、あなたは「子どもにとって大切な権利」をどのように考えますか？

- 子供条例を誰もが知り、子どもがもつ夢を支えてもらえるなど、育つ中で必要な素晴らしい権利があり、その全てが尊重され守られるべきである。
- 全ての子どもにおいて、子ども条例の5つの権利が侵害されないように、市民全体に意識付けされ、理解が広まってほしい。
- 子ども条例の5つの権利が守られるようになれば、個性が生かされ、男女差別などもなくなり、自由に自分のペースで生きていけるようになる。

(2) 新潟市子ども条例の「子どもにとって大切な権利」5つの権利は他者にも尊重されなければなりません。中学生として学校や家庭・地域の生活でどのように考えていきますか？

- 一人一人の違いを理解し、他の人の意見も尊重していく。
- 授業等のグループワークで積極的に意見を発言し参加することで、大人との会議でもしっかりと意見が言えるようにしていきたい。
- 自分の意見をしっかりもち、友達や家族と話し合い、権利を意識することが大切である。
- 大人の主張と子どもの主張が衝突するように、子ども同士でも衝突や対立があるから、相手に対して尊重の気持ちをより一層高めなければならない。
- 5つの権利が自分自身だけではなく他者も尊重されなければならない。家庭では、話合いの機会を増やし、子どもの意見にも耳を傾けてもらうこと。学校では、自分の意見を自由に言える環境を作っていくこと。地域では、積極的に行事などに参加して交流を増やし、子どもの意見も取入れた活動を増やしてもらうことなど、子ども自身が自分の考えを持ち、意見を発言（発信）し、積極的に活動に参加していくことが重要だと考える。
- お互いに権利があることを認め合いながら、相手の気持ちになって考え生活していきたい。

テーマ3 「新潟市子ども条例」が制定され、パンフレットを読んでどのように考えたか

(1) 新潟市子ども条例パンフレットを読んでみて、子どもの権利について考えたり、何か感じたりすることはありますか？

- 子ども条例の権利や自由を守る制度ができているから、より多くの人たちが子ども条例に関心を持ち理解していくことが大切だと思う。
- 子ども条例について、知らなかった人が多いと思う。市民全員に条例を広めていくことが必要であると感じた。
- 子どもだけでなく、大人にも係わることなので市民全員に知ってもらいたい。
- 子どもに多くの権利があるが、その権利が尊重されていない人が今までいたので、権利が尊重されれば、のびのびと生きていける子どもが増える。
- 子ども限定というより、大人に当てはまる内容も多いので、大人にも知れ渡るように広めていってほしい。

(2)新潟市子ども条例の多くは「大人の責務」ですが、自分が大人になったときどのような大人として子どもに接していきたいと思いますか？

- 子どもがのびのびと生活できるように、子どもをよく理解し、いろいろな意見を聴き受け止められるような大人になりたい。
- 子どもへの後押しや支えとなるような教育、接し方をしていきたい。
- 子どもの意見を尊重し、子どもがやりたいことができるように接していきたい。大人の考えを押し付けてしまって、子どもの可能性を邪魔したくない。
- 子どもに権利があることを理解し、尊重できる大人になりたい。(子どもの意見を聴いて受け入れる態度、わかりやすく話す態度、やさしく接する態度、同じ人間として大切にすることなど)
- 子どもが安心して育つことができる環境を創れる大人。
- 子どもの意見を尊重することや、子どもが過ごしやすい環境をつくることのできる大人として子どもと接していきたい。

(3) 新潟市が子どもの権利を守ることができる新潟市となるためには何が必要だと思いますか？

- 困っている子どもや家庭への支援を手厚く行う。
- 権利が守られずに困っている人、悩んでいる人に支援の場があることを知らせて、誰もがすぐに相談できるようにする。
- 多くの人がこの子ども条例を知り、大切さを理解する。
- 子どもの権利条例の重要性を呼びかけ、理解を広め、意識して生活し、実感してもらうこと。
- 大人が子どもの権利を理解し子どもと接していく。そうすることで子どもはその権利を理解し、尊重する心を受け継いでいく。
- 大人も子どもも一人一人が子ども条例を理解し、子どもの権利を大切にする必要があると考える。
- 地域と各家庭が連携し、子どもを見守り育てる。
- 子どもの権利を守るための金銭的な援助があった方が保証できるのではないか。
(子どもをもつことのハードルが高くなっている気がする。子育て支援に資金的な援助が必要)

テーマ4 子ども条例に関する自由意見（アイデア）

子ども条例を小学生や中学生の皆さんに広く知ってもらうための方策はありますか？

- テレビやYouTubeなどでCM（広告）、チラシ、新聞広告掲載、コンビニでの放送
- SNSの活用（インスタグラム、TikTok動画、マンガやアニメなど親しみやすいものでPR）
- 子ども条例のポスター、イラスト大会を中学生が企画し、作成過程で条例の内容をよく知ってもらう
- 子ども条例に関するイベントを実施（クイズ形式で子ども条例を知ってもらう）
- 子ども条例の日や新潟市が〇〇ウィークのような大々的な政策（イベント）を行う
- 小・中・高校での子ども条例についての活動や講演会を生徒会で企画する
- 道徳の授業で「子ども条例」について考える（1年に1回振り返りの時間を設ける）
- 生徒会活動で子ども条例について理解を深める活動を行っていく
- 今回のような意見発表・意見交換を市内全体で行う
- 新潟市の大人と子どもがともに考えていける場をつくる
- 市長が子ども条例について語る